

## 第1回宮代町総合計画審議会議事録

### 1 開催日時

令和7年2月27日（木）午後7時00分～午後9時00分

### 2 開催場所

コミュニティセンター進修館 研修室

### 3 出席者

（委員）

折原正英委員、島村孝一委員、並木誠委員、佐々木誠会長、佐藤聡彦委員、保科寧子委員、木村裕子委員、横川周委員

（欠席）

大和田由梨委員、小林俊介委員、難波悠委員

（事務局）

新井町長、井上企画財政課長、村山主幹、大越主査、友部主任、山下主任

### 4 次第

- 1 開会
- 2 町長あいさつ
- 3 任命書交付
- 4 委員紹介
- 5 会長の選任について
- 6 第5次総合計画 後期実行計画の策定について（諮問）
- 7 総合計画審議会の役割と運営等について・・・・・・・・資料1
- 8 第5次総合計画 前期実行計画の概要について・・・・資料2
- 9 令和6年度住民意識調査結果について・・・・・・・・資料3
- 10 その他
- 11 閉会

### 5 議事（要旨）

#### （1）会長の選任について

委員からの推薦により、佐々木委員を会長とすることに決定した。

#### （2）第5次総合計画 後期実行計画の策定について（諮問）

第5次宮代町総合計画（実行計画を含む）の見直しについて、諮問を行った。

#### （3）総合計画審議会の役割と運営等について

総合計画審議会の役割と運営等について、事務局より資料1に基づき説明を行ったと

ころ、以下のような質疑及び意見があった。

- 佐々木会長 会議のスケジュールについて、次回の日程などを確認したい。
- 事務局 次回は、3月27日木曜日19時からとなる。本日の日程とともにメールでお知らせしているが、議題などを含めた正式な通知は、3月中旬ごろを予定している。
- 折原委員 通知はメールで届くのか。
- 事務局 メールで送付するが、不都合があれば相談してほしい。
- 佐々木会長 今後予定している会議の中で、特に議論が必要な場面はいつか。
- 事務局 次回の会議で、後期実行計画事業の素案を案内する予定。その資料提供の際、検討していただきたい分野を提示させていただく。また、委員からも提案したい分野があれば教えてほしい。3月、5月、7月が議論の会になると想定している。

#### (4) 第5次総合計画 前期実行計画の概要について

第5次総合計画 前期実行計画の概要について、事務局より資料2に基づき説明を行った。

#### (5) 令和6年度住民意識調査結果について

令和6年度住民意識調査結果について、事務局より資料3に基づき説明を行ったところ、以下のような質疑及び意見があった。

- 横川委員 資料の9ページ「町民が思う宮代町の特徴・強み」は、全ての年齢層から出た結果なのか。これから移住者を増やしていかなければいけないと思うが、移住者に対して調査をしてみるとまた違う答えが出てくるのではないか。
- 事務局 前回は、転入者を対象にアンケート調査を行った。そこでは、進修館、東武動物公園、新しい村、山崎山の雑木林という意見があった。
- また、調査報告書の58ページでは、居住年数別のクロス集計結果が掲載されている。
- 佐々木会長 居住年数別の他に特徴的な結果はあるか。
- 事務局 年齢別の回答の傾向を見るのも参考になると思う。
- 調査報告書の14ページで定住意向を聞いているが、20代以下の若い世代は「できれば移転したい」の割合が他の世代に比べて高い。どう読み解くか、委員の皆さんに伺いたい。
- 佐々木会長 日本工業大学の学生が卒業後に宮代町から出ていってしまうというのにも影響を与えているのではないか。
- 横川委員 一度、親元を離れて一人で暮らしてみたいというのもあると思う。「他の地域にも住んでみたいけれど、また戻ってきたい宮代町」とするのがよい。
- 佐々木会長 宮代町から一度出たが戻ってきた委員に、自身の経験などを踏まえて

伺いたい。

木村委員 2、3年前までは、都会に比べて買い物などに不便を感じていたが、今は町の良さに気づいた。当時気づけなかったのは残念だったと思う。もしかしたら、町のさまざまな活動を知って出向いていれば、もっと早く町の良さに気づいていたのかもしれない。

島村委員 30代以降は、家を買って、ここに住むと決めた人がほとんどだと思う。10代や20代は、ライフステージや考え方が特に変化する世代なので、当然の結果だと思う。

佐々木会長 宮代町の良さを若いうちに気づいてもらえるようにすると定住したいと思えるかもしれない。後期実行計画に何か反映できるとよい。

#### (6) その他

・各委員から感想や意見があった。

折原委員 前期実行計画の主な成果目標は数値化されているものが多い。行政は結果だと思うので、できたのか、できなかったのか、なぜできなかったのか、結果に対して分かりやすく整理できるとよい。

佐々木会長 最終的には同じような形式で、数値目標を載せるのか。

事務局 後期実行計画についても可能な範囲で数値目標を載せていく。

佐々木会長 評価は重要だと思うが、数値目標があるとそれだけで満足してしまうのが弊害としてある。目標と同時に質的なことも何らかの形で共有できるとよい。

島村委員 基本的に農のあるまちづくりにずっと賛同している。気になっているのは、自治会に加入できない、しないという話。自治会に入るメリットは何かという話があるが、メリットを考えるとというのは方向が違っていて、そこに住む、そこで生活をしていくことが最大のメリットだと思っている。そういうところで良さを感ずてもらうような政策が必要。第5次総合計画はとても良い視点の計画になっているので、うまくいけばよいと思う。

並木委員 宮代町の商工業者の高齢化が進んでいる。事業継承できず、廃業する人が増えている状況。住民意識調査結果で、買い物が不便、交通の便が良くないという声が多くなっている。大型スーパーやドラッグストアの参入があっても、既存の個人店がもっと頑張っていかなければいけないというのは永遠の課題。総合計画の中で起業創業支援講座等も盛り込まれているが、廃業する人と同じ数が起業創業しても結局はプラスマイナスゼロ。現実はそのままでいれない。その中で新しい商工業者が活躍できると、町の活性化や町民の評価に繋がっていく。これは地域特性も関係していて、都会に比べて田舎に行くほど影響力は強くなる。都会と田舎の真ん中で、駅が3つもある宮代町は伸びしろがあると思うので、頑張っていければと思っている。そのためにイベントなどいろいろなことに取り組んでいるので、そういったことを総合計画に盛り込んで、まちづくりの一環と

して進んでいければ、素晴らしい結果につながる。何もしなければさらに落ち込んでいくという分岐点になっているのは痛感している。

保科委員 他の地域では、福祉と農業のコラボレーションとして、障がいのある人たちに農場を任せている作業所があるようだ。一般的な新規の就農者だけでなく、障がい者施設の仕事としての農業等は、既に宮代町にあるのか。

折原委員 農福連携のことだと思うが、今のところ宮代町ではない。個人的に発達障害の方を農作業に従事させたことがあり、目が輝いていた。農福連携は非常に大事だと思っているが、採算性や農地保全等そこまでの取り組み以前の課題が非常に大きい。農福連携の取り組みを何らかの形で支援するようなシステムができるとよい。

佐藤委員 宮代町では新設住宅着工戸数、持ち家、戸建て、分譲戸建てがどれくらいあるのか。また、空き家率や転入転出率がわかれば教えて欲しい。

事務局 後ほど資料を提供する。転出入の状況としては、現在、転入超過が続いている状況。

佐藤委員 いろいろな具体策が上がってきているが、どの自治体も似たようなものに思う。エッジの利いたものにするのか、それなりに実現可能なものにするのかを決めなければならないと思った。

佐々木会長 宮代町がどうかというのは他自治体との比較で見えてくることもある。例えば、空き家が他と比べて多いのか少ないのか。埼玉は全国的に低い方だが、杉戸町と宮代町、幸手市あたりはかなり高くなっているという位置付けが見えてくると打つ手が見えてくる。

木村委員 宮代町は空き家バンクの登録がないが、空き家で何かやりたいという人はいる。リノベーションも流行っているので、新築ではなく、空き家があれば移住したいという人もいると思う。また、移住者を増やすことも重要だが、今住んでいる人の幸福度が上がれば、必然的に人が来ると思う。

佐々木会長 住んでいる人の幸福度が上がれば人が入ってくる。そのためにはそれを知らせないとならない。

木村委員 商工業者の事業継承ができない話を知らなかった。もっと知ってもらい機会があり、仕事の体験などができるとよいのではないかと。体験してみたら、手伝いたい、継承したいという人が出てくるかもしれない。

横川委員 宮東中島地区での農地集約について、大規模にすると、効率が上がって、収益性も増すと思うが、稲刈り機や田植え機等は、同じ時期に一齐に使うことになると思う。農業機械の確保の問題があると思うが、こういった支援があるのか。

折原委員 農機具の購入に関しては、認定農業者を対象にした補助金制度がある。利子補給もあるが、米農家は機械だけでも約1,800万円かかる。その他に、農家でない人は農地を買えない、借りられない等の制約もあり、農業に対する国の規制が非常に厳しい。また、相当な努力をしても経営的には厳しい。農機具の減価償却と収益性等を考えると、抜本的な農政改革をしない

と、農地は減びてしまうと非常に危機感を持っている。さらに、農家は今後4分の1になる。日本の食料自給率はカロリーベースで約40%。しかも農薬と肥料は外国からの輸入。日本は10年、20年後、誰が作ったものを食べているのか。町としては圃場整備、新規就農者、農業法人の誘致等を行っているが、限界はある。あとは国と県がどうやって法律を改正し、農地保全をしていくのかだと思っている。

佐藤委員 就労者がおらず、空いた田んぼを誰かが地代を支払って借り、そこで耕作するということは、あまりないのか。

折原委員 利用権設定というのがあり、農地の貸し借りはできる。ただ、4月からは農地中間管理機構という県の外郭団体に届け出をする必要があり、ワンステップ複雑になる。

事務局 方向性としては耕作者数が減っているなので、経営の共同化あるいは集約化という流れ。圃場整備も10人の農家がそれぞれやるのではなく、畦畔を取りはらい、できる人がそこをやるので、農繁期で重なることも少なくなる。

横川委員 土日は、東武動物公園の来園者が多いので、西口エリアの対応をしていくべき。少しお店が寂しいので、小商いの魅力的な人たちを駅前通りに露出させ、来園者と化学反応が起きるような仕掛けを作っていくことが大事だと思う。

事務局 女性向けの支援講座に多くの方が関わっている。活躍する場や楽しく活動できる場を表に出していく必要があり、それを行政として支援するのは必要だと思っている。西口については、前期では道路上での社会実験、後期ではソフト事業で、賑わいを作っていきたいと思うので、方針Fと兼ねる想定はしている。いろいろな意見をいただけるとありがたい。

佐々木会長 表通りはお店が全然ないと思う。固定資産税を上げ、建物を使った方がよいという仕組みにするべきだと思う。もしくは、表通りの裏側の空き家を非住宅用途に改修し、飲食店や物販店にするのもよいと思う。そういった需要が少しずつ出てきている感じがするので、空き家対策と絡めて後押しし、家賃の高い表通りより、家賃の安い裏側を活用するのはどうか。それらを明文化して、後期実行計画に向けていくのはありだと思った。

横川委員の農業の話は、宮代町にある農の風景を将来に残していきたいということか。

横川委員 そうである。農の風景は宮代町のよさだと思う。小学校時代の担任が話していたが、東京から電車に乗って春日部市を過ぎ、宮代町に入ると田んぼが見える。そこで宮代町ののどかな印象を受ける人が多い。耕作放棄地が増えると寂しいと思う。

島村委員 農のあるまちづくりの原点に戻り、対策していくしかない。人口を増やすのは難しいが、宮代町に住みたいという人は必ずいる。好きな人に住んでもらうという考え方をしていけばよいと思う。そのために頑張っていく

しかない。

今後、新しい村が大きく変わると聞いたが、どう変わっていくのか。

事務局

新しい村魅力アップ事業では、本気で取り組む農、身近に楽しむ農などいろいろな切り口がある。森の市場結については、従来、手狭であったり使い勝手が悪かったりと、さまざまな意見があったので、改修していく。また、カフェを広げることも検討している。現状は、概略設計で、いろいろなアイデアを庁内で検討している最中。来年度については、具体的なソフト部分や情報発信の段取りをつけ、改修工事に向けて進んでいく。

島村委員

農については、生産の部分に力を入れていくとよい。販売にいくら力を入れても、生産から販売まで繋がってないと続かないと思う。生産からしっかり責任を持ってやっていけるような体制を組むしかない。

佐々木会長

それぞれ重要なポイントを挙げていただいたが、すべてやろうとすると時間が足りなくなってしまう。大事なところに絞って、重点的に意見を出してもらえればと思う。本日、意見が多かったのは農の話だったと思うので、重点的にやっていきたい。また、新しく取り組む空き家の話もよい。あとは、端々に出ていた情報発信も重要になってくると思っている。

個人的には、いろいろな連携をしていくと相乗効果が得られると思っている。現在、須賀小学校のプロジェクトに関わる中で、和戸駅周辺の話と切り離されて別々に動いていると感じている。担当部署は違うと思うが、庁内で連携していけばうまくいくこともあると思う。わくわくロード事業もまちづくり建設課というハードの部署がやっているが、ソフトな部分もかなり重要なので、まずその部署間で連携をしていく。また、交通も隣町と連携してやっていくと効率よくできるということもある。その辺を未来に向けて、後期実行計画で検討していければと思っている。

・事務局より、次回会議の連絡を行った

(7) 閉会

以上